

職場環境に恵まれて



渡邊智子

(一財)化学物質評価研究機構
[345-0043]埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野1600番地
高分子技術部技術第三課長, 博士(工学).
専門は高分子化学.
watanabe-tomoko@ceri.jp
www.cerij.or.jp

私が、化学物質評価研究機構（以下CERI、当時は化学品検査協会）に入構したのは1987年。CERIはゴム、プラスチックをはじめとする化学物質の安全性評価研究を行う公正中立な第三者機関で、研究開発の支援、技術的問題を解決するための試験、検査、研究、調査や化学物質の総合管理に向けての総合評価を行っております。この、CERI組織の一員として、技術と知識を研鑽する日々が始まりました。私の所属する東京事業所 高分子技術部は、ゴム、プラスチック、無機分野などに関する分析、事故原因究明や調査研究等を担い、企業からの依頼試験や調査研究がおもな業務となります。納期やコストを念頭に置きながら、依頼者の目的に適した手法を選択、考察しながら成果を得なければならないため、業務内容によっては帰宅が相当遅くなることも珍しくありません。

女性が仕事を続けるうえでハードルとなり乗り越えなければならない出来事には、やはり出産、育児が挙げられると思います。CERIでは1992年から育児休業制度が採用されており、私も出産後は制度を利用して半年間の育児休業を取得し、子供が自宅近くの延長保育を頼める保育園に入園後、職場に復帰しました。CERIは、女性職員が全体の約4割を占めており、諸先輩が培ってきた業績と、上司や同僚の理解も深く、女性が働きやすい恵まれた環境でありました。その頃職場は墨田区の向島に位置し、自宅から一駅の距離と住職が近接していたことも幸いして、定時終業後約1時間ですが残業する余裕がありました。勤務先が千代田区であった夫も週一回程度仕事の都合をつけて保育園へ子供を迎えに行ってくれるなど非常に協力的でした。限られた時間の中で仕事と育児は、相反する事柄のようですが、それぞれ真剣に向き合わなければならない、どちらも生活の一部です。職場の理解と家族の協力を得て、悩みながらも折り合いをつけて続けることができました。保育園を卒園後は、学童保育を考

えるのが一般的ですが、小学校入学から四年生が終わるまでの期間、現役をリタイアしていた北海道在住の私の両親が上京して自宅近くに部屋を借り、子供が小学校から帰ってから私か夫が帰宅するまでの間、食事や学校の宿題など世話をしてくれました。そのため、時間的なプレッシャーが減り、業務に深く傾注できる度合いが増したように思います。課長を任されるようになったのもその頃でした。

また、CERIには希望して審査を経れば、学位取得を支援する制度があり、私は学部卒でしたが、職場での経験を考慮されて、大学院博士後期課程に入学、長崎大学客員教授を務めていた上司の指導のおかげと、職場において終業後に研究ができる環境により、これまでのCERIでの自主研究の内容を活かし2.5年で何とか学位を取得することができました。テーマはポリエチレンの生分解菌の探索と生分解誘引剤の添加効果に関する研究で、はじめは上司の研究をサポートし、その後自分自身が実際に担当するようになり、集積培養法により3種の分解菌を特定化することに成功しました。

人生を折り返す年齢を過ぎ、駆け抜けるように過ぎてきたサラリーウーマン人生も残り少なくなりました。子供が無事成人すれば、私の私事も一つ役割を果たしたと言えるのですが、多感な高校生活を送っている子供と話すと、彼なりの苦労が多々あったようで、今後たとえ短い時間でも真剣に向き合う必要を感じています。

仕事についても、この恵まれた職場環境が維持されて、先輩が大きく育つよう、また第三者機関に勤務する研究者として企業にない分析技術を駆使し、ゴム、プラスチック等の高分子材料に発生するさまざまなトラブル、裁判にかかわる事例の解決業務等々、少しでも役立つように残りの時間を有意義に使い、自分の役割を全力で果たしていきたいと思っております。